

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

⑥その他

《医療系》

●自治医科大学医学研究科医科学専攻

「新時代の地域医療学を創る人材の包括的養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

学生の英語による発表・討論能力の向上を目的とし、学生が各自の研究テーマについて英語でプレゼンテーションを行い、海外招聘講師及び学内研究者等の質問及びコメントに対して英語で回答する Scientific Exchange Program Seminar を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

外国人講師を招聘することで、模擬の国際学会等とし、正確な英語による研究発表を行わせた。また、英語によるディスカッションを行うことで、ヒアリング力、理解力の向上を図った。さらに、担当指導教員を同席させることにより、学生がより正確に質問等に回答できるよう、適宜学生に質問の解説及び質問に対する回答の指導等の配慮をした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

Scientific Exchange Program Seminar の実施は、国際学会等での積極的な参加を促しているとともに、大学院生の英語能力の向上に大きく貢献しており、成果として TOEIC スコアの大幅なスコアアップなどが挙げられる。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

《医療系》

●自治医科大学医学研究科医科学専攻

「新時代の地域医療学を創る人材の包括的養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

平成21年6月2日～3日にモンゴルにおいて組織形態学に関するワークショップ「International Workshop on Immunohistochemistry at Ulanbartor」を開催した。本学より学生を含む5名をモンゴル保健科学大学に派遣した。

ワークショップでは免疫組織化学に関する理論を講義し、その後その実践・演習を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

モンゴル国における研究環境を勘案した手法の指導を行った。

講義では同手法の科学的原理を示す模式図、手技の実際を示す写真、結果や応用例を示す顕微鏡写真を多用した。

また、演習を行うにあたり、教員のみならず当該手法に長けた技師を派遣し、より実践的な指導を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

モンゴル国は医学・医療面において言わば発展途上にあると同時に、特殊な地域事情もかかえている。免疫組織化学は、今やあらゆる医学生物学の分野で研究手法として幅広く用いられている基礎的かつ必須な手法であるばかりでなく、疾患の病理学的診断に欠くことのできない手法でもあるが、当地では全く実践利用されていない現状があった。今回のワークショップの実施により、当地の研究者に当該手法の重要性、実現性を教授するとともに、演習により体験させることで、手技を習得させることができた。また、当地にあった手法を指導したことで、今後さらにモンゴル国内に普及させるための礎を築くことができた。